



中京大学スポーツミュージアム

多くのスポーツ選手を輩出してきた中京大学内にある当館は、学術とスポーツが融合し、スポーツの価値を未来に引き継ぐ場となることをコンセプトに、令和元年（2019）10月23日に開館しました。

常設展示には、選手や大会役員などから寄贈・寄託されたユニフォームやメダル、記念品などのオリンピック資料を数多く展示しています。また、スポーツ資料の詳細な情報を見ることができるデジタル・アーカイブズにも力を入れています。

企画展スペースでは、当館自慢のコレクションであるスポーツのボールに関する展示や、私たちが考えるべきスポーツの課題について紹介する企画展を年2回行っています。ミュージアムの外には記念樹や、スポーツ選手の凄さを体感できるARもあります。

目 次

●令和3年度 東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部総会のご報告	2
●令和3年度 研修会のご報告	
愛知県博物館等職員研修会・第45回東海三県博物館協会研究交流会	3
部門別研修会	5
●表紙館のご紹介	6

令和3年度東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部総会のご報告

令和3年度の東海地区博物館連絡協議会及び日本博物館協会東海支部理事会は、神奈川県立歴史博物館で開催予定だったが、緊急事態宣言の延長に伴い、ZOOMミーティングによるオンライン開催となった。また、総会については各議案の議決を書面にて行うことになった。研修会は、テーマを「被災文化財のレスキューと川崎市市民ミュージアムの現状」として開催した。

○理事会

〈開催日時〉 令和3年9月30日（木）13時30分～15時

〈開催形態〉 オンライン会議（ZOOMミーティング）

〈議 題〉 下記総会〈概要〉議題（1）～（5）

〈報 告〉 「最近の博物館動向から」日本博物館協会専務理事 半田昌之氏

○総会

〈概要（令和3年10月8日総会資料配布、11月10日表決）〉

書面表決による議題について、（1）令和3年度理事及び監事の専任について、愛知県は徳川美術館、名古屋市博物館、愛知県陶磁美術館（事務局）が昨年度に引き続き理事館となる。（2）令和2年度事業報告及び決算報告について、事務局案のとおり承認された。（3）令和3年度事業計画及び予算案について、事務局案のとおり承認された。（4）令和4年度開催県について、静岡県が開催県として承認された。（5）繰越金の活用について、令和5年（2023）の設立60周年記念事業での活用案が承認された。なお当該事業の具体的な案については令和4年度の理事会及び総会にて提案される。

○研修会

〈開催日時〉 令和3年12月9日（木）9時45分～16時30分

〈会 場〉 第1部 神奈川県立歴史博物館

第2部 川崎市市民ミュージアム

〈内 容〉 第1部 事例報告：被災文化財のレスキュー

・事例報告1：川崎市市民ミュージアム

「川崎市市民ミュージアムでの歴史資料のレスキュー活動について」

・事例報告2：神奈川県博物館協会加盟館園

「川崎市市民ミュージアムレスキュー活動参加報告」

・事例報告3：相模原市立博物館

「熊本豪雨で被災した植物標本のレスキュー活動について」

第2部 現地視察：市民ミュージアムの被災と現状

・概要説明：川崎市市民ミュージアム 館長 大野正勝氏

・現場視察：被災資料救済活動の現場作業及び設備の視察と説明

〈参加者〉 51名

（田畑潤、愛知県陶磁美術館 学芸員）

令和3年度愛知県博物館等職員研修会・第45回東海三県博物館協会研究交流会の報告

令和3年12月14日に、令和3年度愛知県博物館等職員研修会と第45回東海三県博物館協会研究交流会をオンラインにて開催した。その状況について報告する。

本研修会は、令和3年5月にリニューアルオープンした設楽町奥三河郷土館を会場に、施設見学会を開催し、三県合計45名（うち愛知県34名）が参加した。

〈開催日時〉 令和3年12月14日（火）13時30分～15時00分

〈会場〉 設楽町奥三河郷土館 ※参加者はオンライン参加

〈内容〉

○あいさつ 13:30～13:35

主旨説明・進行 博物館明治村 谷川遥氏

○設楽町奥三河郷土館について 13:35～13:50

設楽町奥三河郷土館 館長 渡邊俊也氏

○館内案内 13:50～14:35

設楽町奥三河郷土館 学芸員 金田直樹氏

○質疑応答 14:35～14:55

進行 鳳来寺自然科学博物館 学芸員 西村拓真氏

○閉会 15:00

〈概要〉

設楽町奥三河郷土館について

館長の渡邊氏からは、博物館が位置する設楽町の豊かな自然や文化、設楽町奥三河郷土館の歴史についてお話しいただいた。

設楽町奥三河郷土館の前身となる設楽町立郷土資料館（昭和35年（1960）設立）は、大名倉の伊藤正松氏から寄贈された考古資料を中心に設立され、その後地域住民や社会科クラブ、学校関係者により資料が充実した。昭和52年（1977）に設楽町奥三河郷土館として新築移設し、「ふるさとのくらしとところを伝える」をテーマに、約8万点の資料を収蔵し、1万点余りの資料を展示していた。そして令和3年5月に、道の駅したららに移転、リニューアルオープンした。

今後は、道の駅の中にある郷土館という立地を生かし、来館者が奥三河のことを深く知ったり、興味を持ったりすることができる場となるよう努めることで、郷土館が奥三河を紹介する拠点となるのではないかと考えている。



設楽町奥三河郷土館 外観



設楽町奥三河郷土館 館長 渡邊俊也氏（左）
学芸員 金田直樹氏（右）

学芸員の金田氏からは、屋外展示から館内の展示をスマートフォンの撮影映像とともにご紹介いただいた。

まずは屋外に展示している昭和43年(1968)に廃線となった旧豊橋鉄道田口線の木製車両「モハ14形」について、外観、内部の解説を、また郷土館の反対側の各種テナントがはいっている産業振興施設など、道の駅全体の配置説明をしていただいた。

館に入り最初に見えるのが、木馬(キンマ)展示である。かつて設楽町の主要な産業であった林業においての木材搬出を再現している。その奥には旧館にあった明治期の古民家が移築され、当時の道具とともに展示されている。ギャラリーには、地域で大切にされてきた土びなが約800体展示されている。

2階の展示室に進むと、奥三河の四季の映像と床に大きな航空写真があり、設楽町の豊かさを感じられる導入展示になっている。展示室は設楽産のスギやヒノキがふんだんに使用され、木の香りを感じながら見学することができる。

展示は大きく、自然史、考古、歴史・民俗、特別展示(戦争中の暮らし)に分かれ、展示点数は約5千点。自然部門の展示では、町内の90%が山林という設楽の自然の中で生きる動物をはく製で、昆虫を標本で見ることができる。また北設楽郡の大地のなりたちの地質図と対応した岩石標本も各種展示されている。考古部門では、郷土館の前身の郷土博物館が寄贈された考古資料(大名倉遺跡)を中心とした展示資料から始まったこともあり、設楽の考古の歴史とその成果などが紹介されている。歴史・民俗部門では、設楽最古の文字が墨で書かれた墨書土器をシンボル展示とし、民俗と歴史に大きく分け展示している。中でも民俗のテーマ展示では5つの内容に分かれており、架空の「設楽家の人たち」の生活がジオラマで表現されており、見学者はイメージを膨らませることができるようになっている。そしてそれを取り囲むようにコレクション展示が配置されている。最後に特別展示室では、戦争中の暮らしに関する資料が展示され、この地域では直接的な戦争はなかったが、影響を受けた暮らしの資料を展示することで、記憶や関心が薄れないようしっかりと伝えていきたい、という館の思いが感じられた。

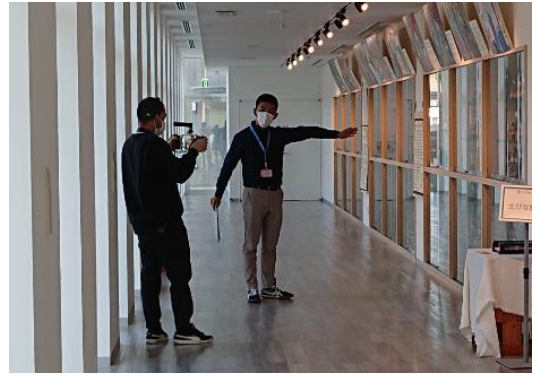
最後に、参加者からの質疑に渡邊館長、金田学芸員にお応えいただき、愛知県博物館協会として初めてのオンライン研修会が終了した。

なお、次年度の東海三県博物館協会研究交流会は、岐阜県博物館協会が開催県である。

〈謝 辞〉

この度の研修会の開催に際し、その準備から実施、施設の見学に至りご協力をくださった、設楽町奥三河郷土館の館長の渡邊様、学芸員の金田様に厚くお礼を申し上げます。

(藤井麻希、トヨタ博物館 学芸員)



金田学芸員によるオンライン見学会の様子

部門別研修会 「学芸員に知っておいてほしい漆のこと、基本のキ」

令和4年3月5日（土）に豊橋市美術博物館にて部門別研修会が開催された。今回は対面とオンラインの併用とし、会場の参加者は14名、YouTube Liveによるオンライン配信の視聴者は26名であった。

今回の研修は、国宝の漆芸文化財の修復にも携わる松本達弥氏をお招きして、「学芸員に知っておいてほしい漆のこと、基本のキ ―漆工文化財の取り扱いと保存―」と題し、博物館関係者が日常業務に必要な漆の知識、修復保存についてご講演いただいた。

冒頭、漆の採取・精製方法や種類から漆工品の歴史の話まで、漆の基礎知識について概要説明があった。東アジアにおける採取法や品質の違いや、縄文時代前期から幕末・明治時代にいたるまでの漆工品の変遷について紹介いただいた。

主題である漆工文化財の取り扱いと保存について、まず取り扱い時の注意点や諸道具、保存環境の説明をいただき、漆工品の状態や素材等の状況を判断した上で保存環境を整える必要性を示された。

保存修復については、制作当初の状態への「復元修復」、調和や安定、時代性を考慮した「部分的復元を含む現状保持修復」、損傷が著しい研究資料への「積極的現状保持修復」の3つに分類した上で、「今ある文化財を、現状を損なうことなく保持し、永く後世に伝える」ことが重要であると述べられた。

修復の方法や材料については、アムステルダム国立美術館所蔵の螺鈿鶴形盒子の事例から説明いただいた。全行程の6割を占めるクリーニングから、数種類の漆を合わせて希釈し亀裂を修復する「漆固め」や、螺鈿の剥離を養生し圧着させる方法（クランプ圧着、芯張り法）を詳細に示された。

最後は、在外日本古美術品保存修復協力事業において、ドイツ・ケルンに派遣されていた際に行ったワークショップについて紹介された。漆工品修復者の育成コースや実演等、ヨーロッパにおける需要を説明するとともに、日本国内における指定品修復従事者が10名に満たない現状と課題を述べられた。

学芸員は漆工文化財修復の依頼者として、どういう修復をすべきか所蔵者や修復者と協議するための知識や姿勢が重要であること、そして後世に継承するためには修復とメンテナンスが必要不可欠であり、作業環境の整備と人材の育成を最優先する必要があると締めくくられた。

会場では参加者からの質疑応答に加え、松本氏ご自身で制作された修復道具や材料を実際に手に取って説明を受ける貴重な機会となった。



研修会会場の様子



修復道具のレクチャーの様子(YouTube Live 配信終了後)

(田畑潤、愛知県陶磁美術館 学芸員)

表紙館のご紹介

■中京大学スポーツミュージアム

【開館時間】

10:00～17:00（最終受付 16:00）

【休館日】

月曜、日曜、祝日、年末年始、大学一斉休暇期間
※開館日については当館 HP をご確認ください

【入館料】

無料

【所在地】

〒470-0393 豊田市貝津町床立 101
中京大学豊田キャンパス 3 号館 2 階
TEL 0565-46-6953
<https://sportsmuseum.chukyo-u.ac.jp/>

【交通手段】

公共交通機関で・・・

- ・名鉄豊田線「浄水駅」よりスクールバス 10 分
※スクールバスは一般の方も無料ご利用いただけます
- ・愛知環状鉄道「貝津駅」より徒歩 8 分

車で・・・

- ・学生駐車場（300 台）をご利用ください（無料）



入口、映像ウォール



企画展スペース

「愛知の博物館」 No.114

発行日 令和 4 年 3 月 31 日

編集・発行 愛知県博物館協会

〒460-0008

愛知県名古屋市中区栄二丁目 17 番 1 号

名古屋市科学館 内

TEL 052-201-4486